ふじやまだより

第16号
発行 2004年
4月15日
本郷
ふじやま公園
運営委員会

松はどこに

環境カウンセラー　平賀 眞之

旧小岩井家古民家の架構軸組木材のうち、柱材を除く、殆どの部材は、アカマツ材である。土間の三和度（たたき）に立ち、いきなり目立つ曲がった梁や、敷鴨居（しきかもい）に、小舎組材（こやぐみざい）、さらには床板や板戸など随所に使用されている。乾燥した尾根のヤセ地にも育ち、安価で便利な材料のアカマツが山地から姿を消しつつある。その原因は、病虫害、酸性雨、乱伐，スギヒノキ中心の林政などが挙げられてきたが対策のないままに看過されている。

永く人々の生活に欠かせない建築用材として、燃料として、マツタケまでも提供してくれた、この愛すべきアカマツはどこに行ったのだろう。

司馬遼太郎は、「この国のかたち－４」の中で、「日本は松の国である」と述べているように生活や文化面にも主役をつとめていた。

定家は、「来ぬ人を、松帆の裏の、夕凪に、焼くや藻塩の身はこがれつつ」と詠む。また、作庭に当り植栽設計を考える時には、正真木としての松、見越しの松、夕陽木、風致樹、流枝松（たげしまつ）など、主木から添景まで、マツは将に絵になる樹種である。

人間は、３２～４０℃の間の血液温度しか生存できないのに、樹木は６０～６５℃の熱に耐え３００年以上も生きる能力をもっている。人間の営みで、マツの種を絶えさせてはならない。飲料水も空気も有限有償の時代になってきた。古来から、松竹梅として歳寒の三友と呼ばれ、めでてきたしるしである。三福対を失う前に手を打とうではないか。皆さんの英知と行動力を寄せられるよう提唱する次第である。

部会便り

工芸部会

賑わいを見せた工作棟祭り

工芸部会　宗森 英夫

最初予定していた３月２０日（土）が雨天のため、翌２１日（日）に順延実施されました。当日は、前日の雨がウソのようによく晴れて、大勢の家族が親子で楽しみました。会場は、古民家中庭にテント４張が設営され、中央に魚つりゲーム場が設営されたりして、所狭しという感じでした。

第１テントでは「布ぞうり編み」が行われ、古着を裂いて作った布紐で温もりのあるゾウリ作りで、年配の方や若いご夫婦などが熱心に挑戦していました。中には、１人で３～４足も編んだ人がいました。

第２テントでは、竹幹をつかった徳利作りに挑戦していました。お酒を入れて暖めると竹の香りがついてお酒がおいしくなります。グイノミも一緒に作って、今夜これで一杯やるのだとはしゃいでいました。ご婦人方は竹箸を作り、実用的なお土産になると喜んでいました。

第３テントでは、太い孟宗竹を使って「竹プランター」や「竹ポックリ」作りが行われました。プランターは、これから春の花を植えるのに調度よいと喜ばれました。子どもたちは自分で作った竹ポックリに乗って遊びました。既に作って用意されていた竹馬に乗って遊ぶ子どもも大勢いました。

第４テントでは、細い竹筒を鳴子のようにたくさんつけてシャンシャンと鳴るシャオリンという楽器を作ったり、竹のパーツを組み合わせて動物のおもちゃを作ったりしました。動物はウマ、イヌ、ネコ、タヌキ、ライオンなどいろいろとあり、夢中になる子は１人で３つも４つも作っていました。

中央の魚つりゲームは、１５０本も立てた孟宗竹の竹筒の中に紙で作った魚（口にクリップがつけてある）が入れてあり、それを小さなマグネットを糸で吊り下げた釣竿で釣り上げるというゲームです。竹筒の周り１ｍ以内には入れないようになっていて中を覗けないので、どんな魚が入っているのか判らないところがミソでした。釣り上げた人には景品として、竹で作った風車や竹製カスタネット、竹製剣玉、竹トンボ等がもらえ人気がありました。中でも竹細工のトンボのヤジロベエは風が吹いてもゆらゆらと揺れながら台から落ちないで上手にバランスをとっていて、見る人を感嘆させていました。また、長さを変えて切った竹筒を並べて作った楽器は、先にゴム板がついた撥で打つとボンボンとエキゾチックな音を奏でて会場の雰囲気を盛り上げていました。

会場の片隅に柱や屋根を全て竹でこしらえたアズマヤ（広さ１２畳）が設営され、そこで「おでん」（２００円）がふるまわれましたが、味がよくしみておいしいと評判で１５０人分用意していたものが瞬く間に売り切れてしまいました。

参加した人たちが、それぞれに楽しんだ１日でした。

力作が揃った古民家作品展

工芸部会　成田　功子

この１年間、公園内にある旧小岩井家の古民家の魅力に引かれて、大勢の方々が来園されました。毎日、数人の方がカメラを構えてシャッターを切ります。また、絵のサークルの方々が何度も来園され、様々な角度からスケッチをされていました。それらの作品をご自分や仲間内だけで楽しむのではなく、来園する多くの方々にも鑑賞していただこうと企画したのが今回の作品展です。会期は３月２０日（土）～３月２６日（金）でした。

今回の作品展では４１人もの方々のご応募があり、全体で４１点もの作品が集まりました。内訳は、写真が８人で８点、水彩画が２６人で２６点、絵手紙が７人で７点でした。展示スペースの関係で、出品点数を制限せざるを得ませんでしたが、内容的には力作が揃い、充実した展覧会になりました。

一般の方々の作品展と平行して、工作棟で教室を開いている講師の人たちの作品の展示も行われました。内訳は、染色・布細工・刺し子・遊布・七宝焼・粘土工芸・つる工芸・鎌倉彫・木版画・植物画などでした。これを見て、教室で学びたいという希望者もでてきました。

今回初めての試みなので、問題点も多々ありましたが、今後、毎年１回は、このような作品展を開いていきたいと思います。ご出品いただいた方々本当に有難うございました。

観桜茶会感想記

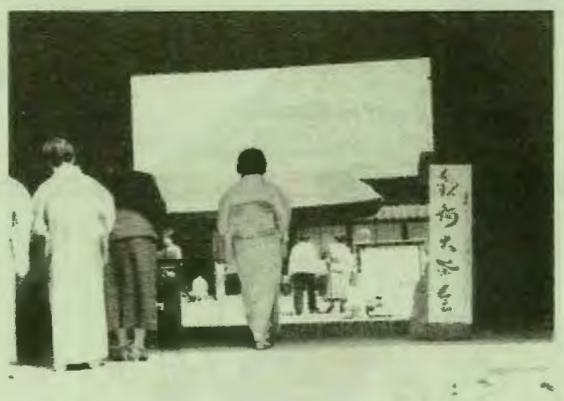
工芸部会　松木　義文

開園一周年記念行事の一環として、地野の茶会と醍醐の花見を合わせたような行事をやろうというので、この茶会の企画は始まった。公募による区内在住の茶道の５先生方のご協力とご指導をいただきながら、公園スタッフと共同で企画を進めてきた。

当日は春うらら、好天に恵まれ、人出も上々。折からの春風に満開の山桜の花びらが舞い、あでやかな着物姿の茶会客が泳ぐように園内を動き回る姿は、一幅の絵を見る思いだった。

茶の湯と、桜と、古民家、これ以上日本的な取り合わせが、またとありましょうか？
敗戦以来、失われ続ける日本の心を再確認した一日でした。

敷島の大和心を人問わば
朝日に匂ふ山桜花　　宣長



いろり守の会　或る日いろり端での会話

いろり守りの会　炉山人

来園者『易４８卦の中に離為火という卦があるがご存知か？』
炉山人『さあー・・・』
来園者『離（はな）れ、離（つ）くものは火と為すとでも読みましょうか。漢字には、このように同じ字で全く逆の意味を表す場合がままあります。このいろりの火をごらんなさい。あちらが離けば、こちらは離れる。こちらが離くと思えば、あちらは離れる。親子、兄弟、夫婦、愛人、友人、知人の関係、果ては政党人の離合集散まで、人生万事この離為火の卦であるといえぬことはない！』
炉山人『なるほど！！』

いろり守りの会では会員募集中です

5月のいろりの焚火の日

5／2（日），　5／12（水），　5／16（日），　5／27（木）

入会希望の方は、上記いずれかの日に公園古民家のいろり端までお出掛け下さい。詳細はその際説明させていただきます。

農芸部会　一年を顧みて

農芸部会　二川　典久

“新しい公園づくりに参加してみませんか”のキャッチフレーズに応募したのが昨年の2月22日、初作業は筍の試し掘りでした。エンジニア一筋での半世紀を送って来た私に、出来ることがあるのかと不安でしたが、スタッフの方々やボランティアの方々の温かいご指導とご支援により一年を迎えることが出来ました。心から感謝しています。一年を振り返って思うことは、よき人たちとの出逢いがあり、そして一人一人が知恵を出し合ってものづくりに挑戦し、成し遂げた時の感動を受けたこと、信頼と人の和の大切さ、人の字は支え合って人となることを再認識したことです。これからも、ふじやま公園が癒しの場となり、心のふる里となるように公園造りに農芸部の一員として飽くなき挑戦をして行きたいと思っています。

東風吹かばにおい起こせよ梅の花、今は主なき郷里の梅の古木がふと懐かしく想い出される今日このごろです。

催し物　ご案内

教室名	日時	内容	定員	参加費
茶道体験	5月15日（土） 13時～16時	裏千家　初心者向け	10名	¥500 （茶菓子代）

（1）定員　：応募者多数時抽選

（2）応募要領　：往復ハガキに、教室名、氏名（ふりがな）、〒、住所、電話番号を書いて

本郷ふじやま公園へ　期限5月8日（土）必着

お知らせ

- **休館日　：5月6日（木）**
- **クリーンアップ作業日　：5月18日（火）10時～11時（4月20日、5月4日は中止します）**

◎ 臨時休園日・・古民家の補修工事のため、4月14日（水）～27日（火）の期間、休園とします。

古民家ゾーン　ご利用案内

◎開館時間　：9:00～17:00
◎休館日：毎月第1水曜日（祝日の場合はその翌日）
◎入館料：無料

◆ 本郷ふじやま公園運営委員会
〒247-0009 栄区鍛冶ヶ谷1－20
Tel:896-0590　Fax:896-0593
◆ 緑政局中部公園緑地事務所
Tel:711-7802　Fax:712-6260